第15回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第15回ワーキングレベル会合が2025年7月24日（木）9:30～11:30に、対面・オンライン形式にて開催されました。当日は署名機関、国内の賛同機関から対面で35名、オンラインで35名が参加しました。

第15回ワーキングレベル会合は、以下のアジェンダで報告や議論を行いました。

1. 定足数確認、議長選出（決議）
2. 新規加盟機関ご挨拶
3. （第1号報告事項）分科会活動報告
4. （第2号報告事項）中期計画の議論
5. （第3号報告事項）その他の報告事項
6. 今後の予定、事務局連絡

定足数・議長選出

決議にあたり、出席署名金融機関数が44と、総署名金融機関数65の過半数を超えているため、定足数を満たしていることを確認しました。

議長は、運営規程第16条に基づき、互選により、日本総研の橋爪氏、SBI新生銀行の山本氏が選出されました。

新規署名機関の紹介

前回のワーキングレベル会合以降、新たに署名した機関が紹介されました。7月1日時点の署名機関数は73社となりました（署名金融機関65社、署名協力機関8社）。

【新規署名機関】
（6月1日付）Global Mobility Service株式会社

【署名協力機関】
（5月1日付）PwC Japanグループ

（7月1日付）株式会社 エッジ・インターナショナル

第1号報告事項：分科会活動報告

各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

【地域金融分科会】

5月末に「地域PIF実践ガイダンス」を発表し、21世紀金融行動原則との共催セミナーを開催。PIFの共通KPIの多くが、中小企業のESG管理に関する指標であるが、インパクト創出の視点でのKPI設定や、中小企業の成長を後押しするような財務直結系のインパクトKPIの設定など「KPIの高度化」についての議論を進めている。スタートアップ向けインパクト投資のKPI設定や手法も参考にしつつ、今後タスクフォースを立ち上げて、共通KPIのバージョンアップを検討していく。

【ソーシャル指標分科会】

当分科会ではこれまでに、8つの事例紹介とディスカッションを実施してきており、これらの事例をまとめた事例集作りを進めている。今後、登壇者への確認や追加インタビューを行い、分科会内での議論やIDFI内でのパブコメを経て、12月の完成・発表を目指している。

【VC分科会】

①VC分科会としての独自の活動、②Impact Frontiersとの共同活動を実施しており、①に関しては5月にインパクトスタートアップ協会と共催でイベント開催。スタートアップ企業側からVCに対する意見として、IMMの支援への期待や、インパクトに関する真摯なディスカッション相手としての期待が寄せられた。②については、Impact Frontiersの報告規範に基づくパイロットプログラムをシリーズで開催している。

【AO/AM分科会】

現在、共同座長等を選定中であるが、今後取り組むべきテーマについて議論を実施し、3点が挙げられた。①脱炭素、自然資本、ウエルビーイングといった個別のテーマ毎のシステムチェンジに取り組む戦略を深堀し投資家間で連携を行う議論、②上場企業のファンダメンタルズ分析の中にポジティブインパクトの要素を取り込む"インパクト・インテグレーション"という考え方の構築と、それと同じような手法で、上場株インパクト投資を拡大していくため戦略的議論、③インパクト投資を行うVC向けの資金アロケーションが十分に進んでいない状況を踏まえた、イノベーションスタートアップ育成のエコシステム全体の議論（戦略を検討中）

【融資・債券分科会】

分科会のウィッシュリストについて、分科会やコアメンバーでの議論を進めつつ、直近では、トランジションファイナンスやジャスト・トランジションの取組事例共有等を進めている。ウィッシュリストとしては、①分科会で議論してきたインパクトファイナンスの定義等に関する内容のさらなる深化、②ファンドや資金需要サイドの視点を重視した議論、③研究・グローバル動向を展望した議論が挙がっており、②に関して8月に南都銀行の取組紹介を実施予定。

【ICEA】

これまでに5回の議論を実施し、①投資家目線での企業価値と事業会社から見た企業価値が異なるため、両者がかみ合わない、②個別のインパクトの創出（α）のみならず、より大きなインパクト創出を見据えた活動が期待されている、という2つの壁を認識している。これらの2つの壁を乗り越えて建設的な議論をしていこうとしている。

質疑応答/意見交換

- ソーシャル指標分科会の活動に関連して、SIIFICの三浦氏より、SIIFICでは地方のソーシャルキャピタルの文脈でインパクトKPIを設計する際にデジタル庁の地域幸福度（Well-Being）指標を活用している旨の共有がされました。これに対し、松原座長より、ぜひソーシャル指標分科会でも事例を共有して頂きたいとのコメントがなされました。
- 地域金融分科会の金井座長より、地域金融分科会でKPIの高度化を議論しているなかで、他の分科会で共有されている事例についても情報が欲しいため、各分科会での様々なアウトプットをIDFI中で共有できる仕組み構築をぜひやっていきたいとの意見が挙がりました。また、インパクトVCへの資金アロケーションがなかなか進まないという課題に関しては、これまでのSRIやESGの広がりを見てきた経験も踏まえ、例えばインパクト創出の観点が国からの支援事業の加点要素になると、一気に進む可能性があるため、IDFIからも提言していけると良いかもしれないとの意見が述べられました。

第2号報告事項：中期計画の議論

事務局より、中期計画の策定に向けたこれまでの議論のプロセスや主な論点、策定されたTOC、新・中期計画の内容等について共有を行い、新・中期計画は本会合後に書面決議を行う予定であることが説明されました。

参加者より主に以下の質問やコメントが挙がりました。

質疑応答/意見交換

✔ インパクトと企業価値の議論について、上場市場はICEA、未上場市場は地域金融分科会で議論をしていくという方向性に同意するが、各分科会での議論結果を事務局でまとめるときに、関係者が集まって意見交換ができる場があると良い。そこで、何が共通項で何がアセットクラス特有なのかが明らかになってくると思う。

✔ βの低減を目指すインパクト投資の議論はどこでやるのか？また、「①インパクト志向へ変革することの納得感の醸成」の議論にβの議論が入ると、②のインパクトの定義拡大の話にも関わってくると考えられるため、考慮して頂けると良い。

- 議論の場はAO/AM分科会を候補に考えているが、コンテンツ運営委員会でもディスカッションして決めていく予定。定義拡大の議論との連携も考慮していく。

✔ βの低減に向けた議論はテーマ別プロジェクトで取り上げ、任意のメンバーで集まって議論していくのが良いのではないか。

- 既存の分科会にアサインしても議論をリードする担い手が出てこない可能性があるため、慎重に検討を進めていきたい。

✔ 上場企業/上場を目指す企業とそれ以外で分けて議論が行われていく時に、ノンプロフィットは地域金融に分類されていくという理解で良いか。また、アジアを始めとした海外でインパクト投資を行っているが、海外インパクト投資の議論もできる枠組みか？

- 現時点では決定していないが、コンテンツ運営委員会で議論していきたい。
  また、海外向けのインパクトファイナンスについても、手を挙げて頂ける方が多く集まれば分科会として設立し、そこで議論していくことも可能。

✔ 融資債券が全て未上場になってしまっているが、上場企業が発行している債券等はどうなるのか。

- 融資債券分科会は上場・未上場の両方に跨るため、改めて整理する。

✔ インパクト創出と企業価値向上の関係性の仮説構築と実証は、具体的にどうやるのか？関連性よりは因果関係の分析を目指しても良いのでは。インパクト指標との因果関係を示すことができれば、情報発信力の高い内容になると思う。

- ICEAでもアプローチを議論しているが、仮説に基づいてケーススタディを分析し、企業価値を構成する要素とインパクトがどう紐づいていくかを検証していくことを考えている。ぜひご意見を頂きながら、ブラッシュアップしていきたい。

✔ βの話は地域価値の話とも関係するため、地域金融分科会で議論していくことも検討してみたい。地域価値の創出をシステムチェンジでどう捉えるかという視点での議論も行われ始めており、地域金融分科会とPwCのプロボノとの共同で検討しても良いかもしれない。

- βアクティビズムとシステムチェンジ投資は必ずしも同義ではなく、βは機関投資家目線の運用理論であり、システムチェンジ投資は特定の地域課題や社会課題の解決を目的としたアプローチであるとの議論を行っている。さらに理解を深めた上で、引き続き整理していきたい。

第3号報告事項：その他報告事項

事務局より、運営員会決議事項である運営規則の制定、出版企画に関する印税等の報告、収支報告、そしてPwCによるプロボノ参画についての報告を行いました。

今後のWL会合予定

2025年 10月22日（水）
2026年 1月23日（金）
2026年 4月
2026年 7月

以上